Nagano Prefectural Museum of History

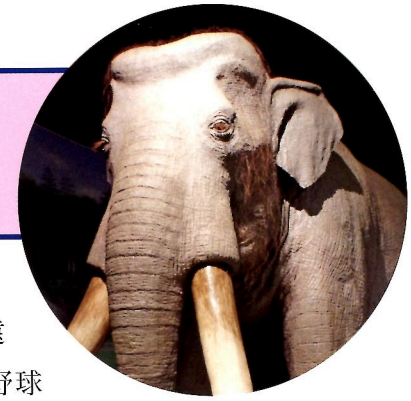
長野県立歴史館たより

2014年 春号 vol.78

特集

「長野県の遺跡発掘 2014」

開館20周年を迎えるにあたって



今年、長野県立歴史館は開館20周年を迎えます。建設構想・開館準備の段階から開館、そして現在に至るまで、様々な形でご指導・ご支援を賜り感謝申し上げます。

二十歳は、人で言えば新成人です。これを機に社会に定着し、歴史研究や教育分野で大きな役割を担い、県の未来に向かって指針を示せるような存在にしていきたいものです。

それには、まず、歴史館の存在を知ってもらうことが第一です。今年、延べ観覧者数は200万人に到達しようとしています。数字的には県民一人が一度は歴史館を訪れた、と言えるところまでもう一息です。しかし、実際には歴史に関心が深い方と、学校見学に支えられている面があり、残念ながら「歴史館はどこにあるの」「どんなところで、何をしているの」といった声を聞くこともあります。

こうした中、平成25年度は、様々な分野に関心をお持ちの方との繋がりを模索し、「信州の野球史」「刃が語る信濃」「山国の水害」「戦前の観光信州」展を実施しました。題名からも感じられると思いますが、旧来の歴史の切り口とは異なったラインナップです。

その結果、これまで歴史館とは縁遠かった、かつての野球少年、刀剣ファンや美術マニア、土木関係者や災害に切実な思いを感じている方、旅行が趣味の方、等々に歴史館を知っていただくことができました。また、日ごろの関心事や趣味の延長から、歴史に興味を持っていただけたと手応えを感じています。

平成26年度には、県外からも歴史館にお越しいただくため、信長・秀吉・家康といったビックネームと信濃武士との係わりを描く展示、北陸新幹線の金沢延伸にあわせ日本海と信州のつながりを描く展示などを企画しています。より多くの方が歴史館を訪れていただくことを願っております。

さらに、展示や講演会、資料閲覧等を一方向的に提供するのではなく、より深く歴史館を知ってもらうことを目指し、個人には歴史館の一員「ボランティア」になって活動していただくメニュー、団体向けには、歴史館の裏側を見ていただき、直に裏方の仕事や生の資料に触れてもらう「バックヤード探検」などのメニューを進めてまいります。

これらの活動から、歴史館本来の使命である歴史の生き証人としての資料の大切さ、後世へ伝えていくための保存・管理の重要性を実感していただければと思っています。

二十歳の歴史館を、多くの方々に役立つ存在として育てていくため、今後とも、様々なご支援をいただければ幸いです。

美術刀剣の見方・扱い方に興味津々

研究の窓

子どもがすごい鏡を発見した!

～『信濃奇勝録』の記録より～

江戸時代後期には、地誌作成ブームが起き、全国で数多く刊行されました。信濃国全域を対象とした地誌はなかなか作られませんでしたが、佐久郡臼田町の神官井出道貞が長い年月をかけた現地調査をもとに、「信濃奇勝録」を天保5年（1834）に書き上げ、孫の通によって、明治19年（1886）に出版されました。荒唐無稽な出来事も記録されますが、奇勝景観をはじめとして、歴史や民俗、社寺や古器物などが、豊富な挿絵を交え記述されています。川柳将軍塚（長野市）や雲彩寺古墳（飯田市）などの出土品が紹介されています。

ここでは、諏訪上社の神宝である「真澄鏡」の発見から納められるまでの記録を紹介しましょう。

寛政12年（1800）の春、山本の郷民三郎兵衛の子ども八十五郎が、友だちの木樵の少年と一緒に薪を採りに守屋山に登りました。休憩場所の近くで輝くものを見つけ、鎌を使って掘り出すと、八角形の径八寸余、厚さ五分で、光輝く鏡が現れ、八十五郎たちをまぶしく照らしました。家に持ち帰って父に話すと、父は村長に、村長は役人に相談しました。役人はすぐに殿様（高島藩七代藩主諏訪忠粛か）に差し出したところ、八十五郎には藩から褒美として米が下されました。殿様はつてを頼って、福知山藩朽木老君昌綱（蘭学に通じ、学者文人大名として評価が高い）に鑑定を依頼すると、千年以上前の鳳馬鏡という答えが返ってきました。肥前国唐津藩主（水野忠鼎か）に話したところ、唐津藩主は役人に命じて長崎で通訳を通して外国人に見てもらうことにしました。清国人は、「鳳馬鏡ではなく背面に麒麟鳳凰の文様がある。発色もきわめて美しく、漢代の菱花鏡で、魏国武帝が宝物として所蔵したものだと聞いたことがある。今を去ること千三百年前に日本に渡ったものだ。こんな珍品を見ることができた」と感嘆しました。今は諏訪の神庫に収められています。

『信濃奇勝録』明治19年（1886）刊行　当館蔵

八十五郎は鏡を発見したとき、どれほど驚いたことでしょう。そして、発見の情報は諏訪ばかりではなく、大名を通じ全国に広がったことに違いありません。昨年、兵庫県で小学生が重要文化財の鏡の破片を発見し全国紙の一面を飾りましたが、もし現在なら八十五郎君が鏡を手に持つ写真が新聞の第一面を飾ったことでしょう。

現在、この鏡（花菱麒鳳八稜鏡）は、諏訪大社上社宝物館に収蔵展示されています。

（原　明芳）

鏡の挿図と発見の記録

「長野県の遺跡発掘 2014」

長野県埋蔵文化財センター速報展

平成26年3月21日(金)～6月1日(日)

今回の速報展では、主に平成25年度に長野県埋蔵文化財センターと、県内市町村教育委員会が調査した成果、その中で近世城郭・城下町についてのテーマ展示を行います。

【長野県埋蔵文化財センターの調査から】

発掘された大集落

長野市塩崎遺跡群は、千曲川左岸に広がる弥生時代から平安時代にかけての集落遺跡で、今年度は、竪穴住居跡68軒ほかを発掘調査しました。弥生時代ではヒスイ製の勾玉のほか、約260gもある県内最大級のヒスイ原石が出土しました。また、古墳時代では5世紀後半の古墳が確認され、その周溝からは馬の骨も出土しました。北信では馬が古墳の祭祀儀礼に使われた最も古い例として注目されています。

重なり合う住居跡と墓（塩崎遺跡群）

馬骨の出土状況（塩崎遺跡群）

水晶でつくった石器

南佐久郡南牧村野辺山高原にある旧石器時代の矢出川第Ⅷ遺跡では、水晶製の石核4点（写真上列）ほかが見つかりました。透明度が高く、宝石のようなものですが、旧石器時代の人びとは石器の材料として利用していたことがわかります。

水晶製の石器（左上 長さ6.9cm、矢出川第Ⅷ遺跡出土）

佐久の弥生文化

信州は「赤い土器のクニ」と言われるほど、弥生文化が隆盛をとげた地域で、佐久地域もそのひとつです。県埋蔵文化財センターでも、弥生時代の大集落を発掘し、現在報告書を作成中です。今回、特別に弥生時代のコーナーを設け、集落に暮らす人びとが使った遺物や、骨壺として用いられた土器（土器棺墓）、埋葬後に墓の上に供えられていた土器などを展示します。

佐久に華ひらいた弥生文化をご覧ください。

墓に供えられていた壺（高さ32cm、西近津遺跡群出土）

【県内市町村教育委員会の調査から】

〈テーマ展示〉長野県の近世城郭・城下町発掘最前線

近年、県内では城郭・城下町の発掘が相次いでいます。そこでは、城郭ならではの出土品や古地図に描かれた城下町の様子が確認されるなど、様々な新発見がありました。

このようなことから、県内市町村教育委員会にご協力いただき、県内各地の城郭・城下町の発掘成果を一堂に展示する機会を設けました。

松本市教育委員会が行った松本城大手門枡形跡の発掘調査では、枡形を囲む石垣や埋められた堀、その中から歴代城主の家紋の入った瓦などが発見されました。

枡形跡発掘の様子と出土した家紋入り軒丸瓦（右上）

他にも、武士の香りただよう松代城下町跡（長野市）の武器・武具、商家の繁栄を示す飯田城下町遺跡（飯田市）の茶器・仏具、飯山城跡・北町遺跡（飯山市）の陶磁器など、多彩な出土品を展示します。

当館では所蔵しているそれぞれの城下町絵図（表紙）に発掘場所を示したパネルも展示し、城下町全体の様子も感じていただけるようにします。

テーマ展示以外にも、木曽郡大桑村下条Ⅲ遺跡や佐久市西近津遺跡群出土の縄文土器・土偶など、話題になった出土品も展示します。

≪関連行事≫

【講演会・遺跡報告会①】

会場:歴史館講堂
日時:3月22日（土）13時～15時30分
〈遺跡報告会〉　13時～13時50分
報告者:長野県埋蔵文化財センター職員
「佐久平の弥生集落」（佐久市西近津遺跡群）
「善光寺平の弥生集落」（長野市浅川扇状地遺跡群）
〈講演会〉　14時～15時30分
講師:大阪府立狭山池博物館長　工楽善通 氏
演題:「ヒミコ時代の信州と西日本」

【遺跡報告会②】

会場:歴史館講堂
日時:4月19日（土）13時30分～15時30分
「城郭・城下町発掘最前線」
講師:市町村教育委員会発掘担当者
遺跡:松本市　松本城大手門枡形跡
　　長野市　松代城下町跡
　　飯田市　飯田城下町遺跡

【考古学講座①】 会場:歴史館講堂

日時:5月10日（土）13時30分～15時
「長野県内における城石垣の変遷」（仮）
講師:歴史館職員

【埋文体験デー】 会場:歴史館内

日時:4月27日（日）10時～15時
発掘や整理、機器を使った仕事を体験できます。

※聴講・体験には観覧料が必要です。

◇お知らせ◇

「長野県の遺跡発掘 2014」は 7 月 19 日（土）～ 8 月 24 日（日）の期間で、長野県伊那文化会館においても開催します。

調査速報、速報展トピックスは長野県埋蔵文化財センターホームページに随時アップしています。
http://naganomaibun.or.jp/

新収蔵品からⅡ

絹本著色一光三尊画像

形状：掛幅装　1幅　本紙法量　縦 80.1 ×横 35.5（㎝）

本資料は、いわゆる善光寺式阿弥陀如来三尊像（一光三尊阿弥陀如来像）の掛幅形式の画像です。時代は、室町時代末～江戸時代のものと推定されます。一つの光背の中央に阿弥陀如来、向かって右に観音菩薩、左に勢至菩薩が配置されています。一般的には、銅造のものがほとんどで、木・鉄・石製などの場合もありますが、いずれも立体像で、この作品のような画像形式のものは、きわめて珍しいものです。

立体像の場合は、三尊・光背・台座がセットになっていますが、本画像には、さらに台座の下に二人の人物が描かれています。このことを考える上で、根津美術館（東京都港区）所蔵の三幅対の重要文化財絹本著色善光寺如来縁起絵が参考になります。この場合、第三幅の中央に大きく一光三尊像（当館常設展示の鎌倉時代の善光寺門前コーナーに展示されています）が描かれ、台座の下に二人の人物が描かれています。一光三尊像の周りには、善光寺如来の縁起を示す画像が描かれていることから、この二人は、縁起に登場する月蓋長者夫妻と考えられます。当館蔵の資料も、同じように二人の人物が描き込まれており、本資料の源流は善光寺如来縁起に描かれた一光三尊像と考えられます。

根津美術館の作品は鎌倉時代のものですから、善光寺式阿弥陀如来像を画像で描くことは立体像の模造が数多く制作された中世の始め頃までさかのぼるものと考えられます。ただし、この様式の阿弥陀如来像の印相は、右手が手のひらを開いた施無畏印、左手は下げて人差し指と中指を伸ばし他の指は曲げる刀印であることを通例とします。本作品の場合は、右手も左手も親指と人差し指を稔じ、右手を上にし、左手は掌を上に向ける来迎印の形をとっており、善光寺式の印相と様式を異にしている点が注目されます。

歴史館の楽しさを伝えてみませんか
～ボランティア活動から～

歴史館でボランティア

荒井恵美（千曲市）

「こんにちは！　長野で出土した本物の土器です。ぜひ触ってみて下さい！」“縄文人になって遊ぼう”という特別企画コーナーでボランティアとして私はお手伝いをしています。

「これって本物かな」、「触っていいの」と老若男女問わず土器を触って持ち上げていきます。

さらに縄文人の衣服を再現したアンギン編みの衣装を着ることができます。丁寧に織られた衣装は、企画発足時には固く麻の香りも強かったのですが、回を重ねるにつれ、しなやかに人に馴染んできました。家族全員で着て写真を撮ったり、カップルでポーズを決めてくれたりと、好評で「面白かった」という声を聞くたび嬉しく思います。

「縄文人になって遊ぼう」で縄文風衣装の着付けを手伝う筆者

ここで一つ問題が。大人用衣装なので小さな子供が着るには無理をしなければなりません。子供用があればと日々思っています。興味のある方、一緒にボランティアで作ってみませんか。

あなたも参加してみませんか

ボランティアと聞くと、「誰かの手助けになるようなことをしなくては」と構えていませんか。また「歴史館で」と聞くと、「敷居が高そう」とか、「専門知識がないとダメなのでは」などと思っていませんか。

でも、そんなことはまったくありません。「子どもと遊ぶのが好き」とか、「モノ作りが好き」、「歴史館の中をのぞいてみたい」といった動機で結構です。というのは、現在、当館でボランティアの皆さんに参加していただいているのは「勾玉作り」「縄文人になって遊ぼう」などのイベント、「木製品の保存処理」のお手伝いなどだからです。

職員とともに保存処理の作業を手伝うボランティア

こうした活動の中で、堅物な学芸員と来館者の橋渡しをお願いしています。同時に、体験学習の楽しさや歴史館のことを、ご近所やその他の場所で伝えて欲しいと思っています。さらに、新たな活動の提案もしていただければと考えています。

昨今、さまざまな情報はデジタルデータや画像で手に入れることができます。しかし、自分の手で作ったり、本物に触れたりすると、視覚情報だけではない新たな発見があり、記憶にも残ります。さらに、他人に伝えることでそれらは倍増されるでしょう。

ぜひ、この楽しさを伝えるのに一役かっていただけないでしょうか。

ボランティアに関する問い合わせ先
学芸部 総合情報課（ボランティア担当）
026-274-3991

INFORMATION
インフォメーション

■2014年
2月～5月の行事予定

表紙の写真
《松代之図》 部分 真田宝物館蔵（長野市松代町）
寛政年間（1789～1801）に、藩御用絵師の三村自閑斎が作成したものです。桜が松代城内や城下の各所で咲き誇っており、松などの緑に映えています。
「長野県の遺跡発掘2014」では、中央付近にみえる「殿町」（松代病院増築工事）、「紺屋町」（道路拡幅工事）に伴う発掘調査の出土品がご覧になれます。

2月 後半

休館日 24・25

館蔵品展
戦前の観光信州
―パンフレットでたどる昭和初期の鉄道・山岳・温泉―

開催中～3/9(日)

講　座
3/1(土)13時30分～15時
「観光パンフレットの楽しみかた」
講師 原　明芳(考古資料課長)
林　誠(当館学芸員)
金澤大典(当館学芸員)

やさしい信濃の歴史講座　第7回
2月22日(土)13時30分～15時10分
山崎会理　風疹は命の品定め
～疱瘡は面の品定め～
宮本　博　わざわいを避ける
～木製祭祀具からみる古代の祈りから～

3月

休館日 3・10～12・17・18・24・31

歴史館セミナー②
「再発見!　私たちの更埴・埴科
～足もとから見直す歴史と文化」

3月8日(土)13時30分～16時
青木隆幸　果てしなく黄色い花咲く丘が～満州埴科郷開拓団の4年間～
宮下　修　(坂城町鉄の展示館学芸員)
高田開府400年と更埴地域
～高田藩領「坂木五千石」～
矢島宏雄　(千曲市文化財センター所長)
雨宮のご神事(仮)

飯田市美術博物館連携講座
於:飯田市美術館

3月9日(日)13時30分～
傳田伊史　古代の大規模災害
-仁和の大地震と洪水-
村松　武　(飯田市美術館学芸員)
南信州の巨大崩壊

3月15日(土)13時30分～
霜田英子　絵画資料からみた善光寺地震
櫻井弘人　(飯田市美術博物館学芸員)
天災と霜月神楽-大地震に直面した人びとの祈り-

春休み親子映画会
3/20(木)、21(金)、23(日)、25(火)
13時30分～17時(開場13時)

速報展
長野県の遺跡発掘2014

3/21(金)～6/1(日)

講演会・遺跡報告会
3/22(土) 13時～15時30分
●遺跡報告会①
「佐久平の弥生集落」
「善光寺平の弥生集落」
長野県埋蔵文化財センター職員
●講演会
「ヒミコ時代の信州と西日本」
講師　工楽善通 氏
(大阪府立狭山池博物館館長)

4/19(土)　13時30分～15時30分
●遺跡報告会②
「城郭・城下町発掘最前線」
松本市・長野市・飯田市教育委員会調査担当者

4月

休館日 21・28 あんず祭り期間中は開館

長野市浅川扇状地遺跡群出土土器
(速報展展示資料)

5月

休館日 7・12・19・26

埋文体験デー
4/27(日)　10時～15時
歴史館

縄文人になって遊ぼう
5/5(月)　10時～15時
歴史館

考古学講座①
5/10(土)13時30分～15時
白沢勝彦 長野県内における城石垣の変遷(仮)

古文書講座上級①
5/24(土)

考古学セミナー
5/24(土)　県考古学会総会
藤森栄一賞受賞者による講演会他

行事アルバム

遺跡探訪会　10月19日（土）、参加者37名
松本市立博物館「発掘された日本列島2013」を中心に、関連展示のあった松本市立考古博物館と塩尻市立平出博物館、石垣解体修理中の松本城を見学しました。

「山国の水害」講演会　11月23日(土)、聴講者247名
「善光寺地震、その時何が?」と題し、当館客員学芸員の工学博士山浦直人氏に講演をいただきました。会場は多数の聴講者で溢れ、展示解説でも多くの質問が飛び交い、改めて災害への関心の高さを実感しました。

長野県立歴史館たより　春号　vol.78
2014年（平成26）2月14日発行
編集・刊行　長野県立歴史館

〒387-0007　千曲市屋代 260-6
電話　026-274-2000（代）　FAX　026-274-3996
E-mail　rekishikan@pref.nagano.lg.jp
ホームページ　http://www.npmh.net

印刷　富士印刷株式会社